山形テルサ指定事業
東北にシューベルトを！企画

高橋アキ
シューベルト
三大遺作
ソナタ・コンサート

語るように、歌え。
瞬間のきらめきと生の深淵。

F.シューベルト作曲
ピアノ・ソナタ第19番 ハ短調 D.958
ピアノ・ソナタ第20番 イ長調 D.959
ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D.960（遺作）

Aki Plays Schubert Piano Sonatas

2016年10月13日（木）19:00開演（開場18:15） 山形テルサホール（JR山形駅西口駅前、TEL 023-646-6677）

■チケット（全席自由）発売中!■ ●前売券：一般 4,000 円（テルサ会員 3,600 円） ●ペア 7,000 円（前売りのみ、テルサ会員 6,400 円）
●シニア 65 歳以上 3,500 円（テルサ会員 3,200 円） ●学生（大学生以下）2,000 円（テルサ会員 1,800 円） ●被災地からの避難者 1,000 円（案内状とともにマルメロか山形テルサにお申し込み下さい） ▲当日券：一般 4,500 円 シニア 4,000 円 学生 2,500 円
*未就学児の入場はご遠慮ください。 *テルサ会員価格でチケットをご購入いただけるのは、山形テルサに限ります。

チケット発売：山形テルサ、マルメロ、NPO 法人 Mプロジェクト（090-5234-1223）、富岡本店、十字屋山形店、八文字屋 Pool、大沼本店、辻楽器店、ミュージック昭和、TENDO 八文字屋、白鷹町文化交流センター AYu:M、大沼米沢店、音楽 Azm 舘米沢店、ほか

お問い合わせ・予約：マルメロ tel 090-2435-1654 fax 03-5627-7584 e-mail: marmeloyama@gmail.com

主催：マルメロ 後援：山形市教育委員会 協力：カメラータ・トウキョウ、国際フランツ・シューベルト協会、NPO 法人 Mプロジェクト、白鷹町文化交流センター AYu:M 他

31歳で夭折したシューベルトが、最期に遺した珠玉のピアノ・ソナタ群の真実に、高橋アキが辿り着いた境地！

世界中の現代の作曲家から絶大な信頼をおかれ、半世紀にわたり、多くの名作や難曲の初演 / 演奏をおこなってきたピアニスト、高橋アキさん。クラシックに飽き足らず、未知の音楽への興味と共感で、音楽のゆたかな地平と未来を切り拓く一方、エリック・サティ再発見の立役者としても国内外で大活躍を続けてきました。

そのアキさんが、近年、意外にもシューベルトのソナタをライフワークの一つとして取り組んでいます。

2009 年 4 月 27 日。東京文化会館「高橋アキ シューベルト三大遺作ソナタを弾く！」で体験した感動を、私は生涯忘れないでしょう。

ピアノという一見肉声から最も遠い特性をもつ楽器が、シューベルトが生きたその時まで下降するかのような語り口で、生と死がせめぎあう〈歌〉を響かせ始めたのです。

誰にでもある（あった）、日々のいとなみ。

憧れや喜び、痛みや失意。ゆっくりと歩いてみたり、我を忘れて駆け出したり、ふと立ち止まっては雲を見上げたり、微笑み合ったり…。そんな何気ない人生の瞬間が、詩のように弾み、連なり、生命のダンスのようにみずみずしい感度で立ち上がる。まるで自身の記憶や感覚の迷宮をさ迷い歩くような、寄せては返す音のタペストリー（綴れ織り）の世界。

時折、迫り来る死の影や絶妙な〈間〉（休符を超えた豊穣な沈黙！）の余韻が、さらにドラマティックに生の深淵を浮かび上がらせる。休憩含め2時間半。

親しかった今は亡き人からの手紙、あるいはその人そのものに思いもかけず再会できたような親しみ、深くあたたかな感情。湧き上がる内面のドラマは、それぞれ違うでしょう。ただ、この人類へ遺された希有な〈手紙〉を、私は私の郷里の多くの人や震災で避難 / 移転された方々にも聴いてほしいと、心から願うのです。

誰よりも深い楽譜の洞察とするどい感性。そして円熟した表現力で滋味深く、愛を込めてあざやかに奏でるアキさんの〈今〉の音に出会ってほしいと思うのです。　（斎藤 朋・マルメロ）

東北にシューベルトを！　亡き人に…そして、今は亡き人を想う人に捧げる

耳に聞こえない世界からの、静寂から起こり静寂に帰す芸術。…高橋アキの演奏はまさにこれらのソナタの宇宙性を体現する。

茂木一衛（音楽現代　2009年6月号、コンサート評より）

高橋アキのシューベルト、これは見過ごすことのけっしてできない、近来の“事件”にほかならない。

私などがここに言うまでもなく、高橋アキは長い芸歴のうちで、つねに「現代音楽のスペシャリスト、エキスパート」の地位にあってきたピアニストである。その彼女が、少なくとも私たちには思いがけなくもシューベルトを弾く。それも、深ぶかとロマンティックな最後の《ソナタ》D960と通常最も愛らしい1曲とされている“小イ長調”D664を取り上げて、である。だが、聴き進むうちに、そのような先入観による意外性は、どこへともなく薄れ、消えていく。そこに響いているのは、疑いもなく、一流のピアニストからしか発せられない類の、深く、重く、しかも美しいメッセージなのだから。変ロ長調ソナタは、抒情性と共に、秘められたドラマ性をも心して描き出した演奏であるが、特筆したいのは、それがけっして外側からの巧まれた造形ではなく、間違いなく内側からにじみ出るものの実感を伴うことである。言い換えれば、これは私がこれまで、愛して止まぬこのソナタにおいて聴いた、最も感動的な演奏のひとつである。

濱田滋郎（レコード芸術　2007年11月号・特選盤）

D960の特別な1枚。《歌の力》を確信させるシューベルトの真髄。漂うウィーンの香り、吸引力抜群のシューベルト。遠雷のようなトレモロ、深い余韻と沈黙の力。

第1楽章、テンポとダイナミズムが的確、シューベルトの吐息と体温がじかに伝わってくる。第2楽章でもひとつひとつの音が噛みしめられ、感じられ、考えぬかれ、意味が的確に汲み出されている。沈黙の意味をよく理解した演奏で、一歩一歩反芻しながら歩んでゆくなか、沈黙のなかからしだいに「歌」がにじみ出てくる。孤独を養分とした「歌」は「愛」になる。その沈黙と孤独の弁証法に通じたまれな演奏だ。つづく第 3 & 4 楽章では、この「歌」の意味を知るもの同士の親密なユートピアが夢見られている。実に理想的な展開で、この曲の愛聴盤になりそうだ。

喜多尾道冬（レコード芸術　2007年10月号・文抜粋）

高橋アキ（ピアノ）

鎌倉生まれ。東京芸術大学大学院修了。大学院 1年の時、武満徹作品を弾いてデビュー。透明な響き、音色の柔軟な感受性をもって現代曲を演奏し、鮮烈な衝撃を与えた。1970年初リサイタルを開催。72年にはじめてヨーロッパに渡り、ベルリン芸術週間、パリ秋の芸術祭などでリサイタルを開き好評を博す。その後も毎年、海外の主要音楽祭から招待され続けている。75年より『エリック・サティ連続演奏会』（12回）を企画構成の秋山邦晴とともに開催、「サティ再発見」の大きな契機となった。自ら企画構成・演奏した『高橋アキ "新しい耳" シリーズ』では多数のソロまたはアンサンブル作品を委嘱初演、<ピアノ・ドラマティック>シリーズと合わせ画期的なコンサート開催で高い評価を受ける。現代音楽のパイオニアとして世界で活躍を続け、73年度芸術祭優秀賞、83年第1回中島健蔵賞、86年 第1回京都音楽賞・実践部門賞、2003年第21回中島健蔵賞、平成20年度文化庁芸術祭優秀賞、平成23年秋の紫綬褒章を受章。レコーディングにも意欲的に取り組んでおり、「シューベルト・ピアノソナタ集」と「モートン・フェルドマン・トリオ」コンサートの演奏により、平成19年度（第58回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。これまでに、カメラータ・トウキョウから 5枚のシューベルト・ピアノソナタをリリースしている。

http://www.aki-takahashi.net/

「シューベルト：ピアノ・ソナタ D.960&D.664」／高橋アキ　CMCD-28141 ／ 3,024 円（税込）
★2007 年度（第 58 回）芸術選奨【文部科学大臣賞・音楽部門】受賞
★「レコード芸術」2007 年 11 月号【特選】 ★「音楽現代」2007 年 11 月号【推薦】
★「レコード芸術」2008 年 2 月号 第 32 回リーダーズ・チョイス【器楽曲部門 第 6 位】【総合 第 20 位】
「シューベルト：ピアノ・ソナタ D.958&D.959」／高橋アキ　CMCD-28193 ／ 3,024 円（税込）
★「レコード芸術」2010 年 2 月号【特選】

高橋アキ シューベルト 三大遺作 ソナタ･コンサート
2016年10月13日（木）19:00開演（開場18:15）
山形テルサホール　JR山形駅西口徒歩3分　TEL 023-646-6677　ⓟは駅西花笠パーキングなど

Design: COCHAE